

## ADNOC の大規模流出油訓練 “ Exercise Ghazal ” (メンテナンス請負業者の視点)

Glyn W. Higginson  
Marketing Manager, Lamnalco

アラブ首長国連邦の P.A.J. 備蓄基地資機材のメンテナンス請負業者として、我々のガザル訓練との関わりは、同訓練に先立って年間を通して開催された計画作成検討会議を通じ、初期の段階から始まった。

「ガザル」とその関連組織、およびさらに重要なこととして、ADNOC が目指す目標(これに基づいて当日の成果とこの訓練で得られた今後の対応のための教訓とを評価する)について、先程 Ed (Svitil 氏) が論じた。メンテナンス請負業者として、また「ポンツーン 300 流出事故」に対応した者としての視点から言えば、「ガザル訓練」は以下の目標を達成するための機会を Lamnalco に与えてくれた。

- ・ アブダビにおいて P.A.J. と備蓄資機材について知ってもらう。
  - ・ 借用手続きと資機材備蓄の意図について知ってもらう。
  - ・ 備蓄資機材の動員のための後方支援のテストを行う。
  - ・ 参加する多数の組織の要員を統合する。
- V. 現在のアラブ首長国連邦の油流出対応体制を評価する。

### I および . - 知名度

目標 I とは、備蓄資機材を十分に利用してもらうために我々が引き続いて取り組んでいる長期目標である。今後発生する流出の対応に関与する組織に対し、知名度を最大限に上げることが必要である。その意味で、ガザル訓練は絶好の機会であった。

アラブ首長国連邦にある会社の多くはこれまで、この地域において調達できる対応能力に関して、P.A.J. がどのように貢献しているかを知らなかった。実のところ、先の「アルジャジャ 1 号」(ヨーロッパの入江用に設計された 800 トンの燃料油を輸送する小型タンカー)の流出の際、対応組織の中には P.A.J. の資機材を使用するには料金を支払う必要があると思っている人もいた。このような誤解が同じ組織の別のメンバーによって直に解かれたことは、備蓄資機材が広く知られるようになってきており、今後もそのようになることを意味している。

「ガザル」と「アルジャジャ 1 号」で資機材の展開が公開の場で行われたことにより、P.A.J.の名前と、緊急時に行なわれる備蓄資機材による支援とが人々に一層知られるようになった。マスコミ報道はさらに大きな媒体として、市民にそのことを伝えた。

全体的にみて、過去 24 ヶ月の間に、以前よりも遥かに多くの組織によって備蓄資機材の存在が認知され、利用されてきた。これは主に、「ガザル」等の訓練とその後の「アルジャジャ 1 号」流出事故が、緊急事態の対応で最も大きな働きをする人々の心に備蓄資機材の存在を植え付けたためである。

#### ・ 動員における後方支援

周知のように、流出発生時には動員時間が非常に重要である。油処理剤が効果を発揮できる時間帯は比較的短い。オイルフェンスを速く展張すればするほど、重要な地域、特に中東の場合は淡水化装置、を保護できる可能性が大きくなる。

それ故、あらゆる機会を捕らえて備蓄資機材の動員と展開に伴う後方支援体制を試すことが切望されている。メンテナンス請負業者として我々は、対応組織に代わって備蓄資機材を運搬することを依頼されることがある。このため、何時でも応じられるように信頼できる後方支援のインフラを確実に設置することが重要である。これは、24 時間対応ができるように地元の運送会社と契約を結ぶということであり、また資機材を保管しているアブダビ石油 (ADOC) の場合は、同社と連携してできるだけ短時間で資機材備蓄基地に到着できるようにするということである。

ガザル訓練では資機材が前日に訓練現場に運ばれたので、この点について、本当の意味での信頼性を試すことはできなかった。とはいえ、そのような事態に対して、後方支援のネットワークが機能しなければならないこと、およびこれらのシステムが直ちに使えるようになっていなければならないことが分かったことは、それ自体ひとつの成果である。

訓練の結果、Lamnalco、ADOC、後方支援をサポートする会社の間での連絡と連携は改善された。現在我々は、1 時間以内にアブダビ基地にトレーラーを持って来ることができ、アラブ首長国連邦内のほとんどの港で約 2 時間でクレーンを使用できるので、動員時間も短くできる。

結局、これらの所要時間を改善することによって対応の幅を広げることができる。これは、オイルフェンスをより速やかに展張して入江を保護できる、後続の流出油を包囲できる、沖合で早期に油を回収して海岸線への大きなダメージを防ぐことができる、ということである。

それには、上記以外の後方支援作業も効率的に機能しなければならないけれども、我々が自分の担当する部分を改善することによって、アラブ首長国連邦において弾力的な対応を行うことができ、そうすることで備蓄資機材を有効に使うことができるようになる。

・ - 要員の統合と共同作業

どんな対応においても、自然の力を除けば、おそらく人間が最大の不確定要因であろう。置かれた状況に各人が違った反応の仕方をするという意味での不確定要因であり、その度合いは、組織の中で、ひいては油流出対応作業の中で、異なる国籍、文化、言語が混在するアラブ首長国連邦のような国にあっては、著しく増大する。

ガザル訓練では、資機材の展開にあたって、日本、イギリス、インド、パキスタン、フィリピン、GCC の国民と一緒に作業を行った。

したがって、アラブ首長国連邦における対応で必ず直面すると思われる問題の一つが、ガザル訓練の最中にも発生した。つまりガザル訓練では、リアルタイムの展開と沖合対応を成功させるため、OSRL、PAJ、Lamnalco、ADNOC のチームメンバーが一致団結しなければならなかった。

全体的にみて、確かに多少の不都合が認められ、皆が言葉の違いに慣れるまでにしばらくかかったが、任務は順調に割り当てられ、遂行された。訓練中は、オペレーター間の英会話レベルの格差にしかるべき配慮がなされた。訓練が始まったころには、同じ組織のオペレーター同志で固まっていたが、日がたつにつれてそのような集団は消滅し、一つ一つの作業で、別組織の要員が完全に入り混じっていた。結局、資機材の展開が最優先され、言葉の違いは二の次となったので、対応作業にとっては好都合であった。

OSRL のメンバーが述べたことだが、これまで P.A.J. のオペレーターと一緒に作業したことのない彼等が深い感銘を受け、P.A.J. のつなぎ服が余っていれば、記念の品としてサウサンプトンに持って帰りたいと思ったという。

全体として我々は、メンテナンス請負業者の視点から、また一方では参加者として、前述の目標に到達する上でガザルが大きな助けになったと感じている。そのことは、本年 1 月 24 日に「アルジャジャ 1 号」の沈没によって発生した油流出に言及するとき、特にはっきりと理解できる。

私は、ガザル訓練の成果として、「アルジャジャ 1 号」流出の対応作業において、昨年 10 月に学んだ教訓を活かすことができたと確信している。というのも、実際の流出で作業

に当たったオペレーターの多くは訓練のときと同じで、P.A.J.のハイスプリント・オイルフェンスは首尾よく展張され、Lamnalco と ADNOC の要員の統合と協力は非常にうまく行った。

「アルジャジヤ 1 号」は、1998 年 1 月の「ポンツーン 300」の流出と比べると小さな事故であるが、沿岸の狭い範囲に発電所海水取入れ口、製油所、海水浴場等が立ち並ぶ重要なエリアで発生した。

がザルで学んだことが試される本当の試練が訪れたわけであり、さらに重要なこととして、ガザルの成果として、このような流出を処理するための対応が滞りなく実行された。

全体として、「アルジャジヤ 1 号」への対応は成功したと見なされており、悪天候によって作業は絶えず邪魔されたが、救難隊員は船内に残された積荷を回収し、船を港まで曳航することができた。浜に漂着した油は、直ちに市の職員によって処理され、油処理剤の使用と資機材の展開はほとんど支障なく行われた。

これからも、このような対応は、継続的な訓練・演習を行って十分に知り尽くした上で初めて実行できることである。願わくは、油流出対応に関して、「ガザル訓練」の成果が雪だるま式にアラブ首長国連邦全体に広がることを期待したい。加えて、各首長国に、国家緊急時対応計画とその対応基地を早急に整備することによって、北部の貧しい首長国でもアブダビと同様の対応を行えるよう努力して行きたい。